

平成二十三年年度 入学式 学長告辞

春たけなわの本日、ご来賓各位並びに保護者の皆様のご臨席の下、ここに平成23年度久留米工業大学入学式を執り行い、工学部、大学院修士課程の入学生および編入学生をお迎えしますことは、本学関係者一同の大きな喜びであります。本学教職員及び在校生を代表して、新入生の皆さんに心から歓迎の意を表するとともに、保護者の皆様にも衷心よりお慶びを申し上げます。また、お忙しい中を本席にご臨席賜り、新入生たちの学生生活の出発を祝福下さいましたご来賓の皆様には、厚く御礼申し上げます。

さて、3月11日に発生した東日本大震災による巨大津波は、世界最大級の防潮堤を破壊し、東北沿岸地区に壊滅的な被害を与えたとともに、万全の地震対策を施し、安全であると信じられていた福島原子力発電所にも甚大な損傷を与えました。日本の科学技術力は高いと言う思い上がりがあったことを改めて思い知らされたことでした。しかし一方では、被災地の方々が冷静に対処し、秩序を守り、必死に他人を救おうとする姿は、世界に驚きと感銘を与え、日本人の底力を世界に示しました。また、被曝の恐怖に耐えながら、原発復旧に献身的に従事されている方々を始め、救援・支援活動に携わる関係者の方々、ボランティアを含む全国から、あるいは世界から寄せられる多くの救援活動に、戦後最大とも言える災害の復興に向けた力強い動き、希望を感じ取ることができます。しかしながら、完全復興への道は、はるか遠く、当面は日本経済の落ち込みは深刻だと思われま

皆さん方が、このような極めて厳しい状況の中で、本日もめでたく入学され、これから大学において学ぶことができることが、どれ程大きな価値のある有難いことであるかを、まずはしっかりと認識して下さい。そして、日本のこれからの復興には、皆さん方、若者の力が欠かせません。その期待に応えるために、自分は大学で何をなすべきかを常に考えながら、これからの一日一日を有意義に過ごして頂くよう願っています。

ところで、本学は、今年で創立から47年目を迎えます。この間、福岡県南部唯一の工学系高等教育機関として、「人間味豊かな産業人の育成」と言う建学の精神に沿い、「知・情・意」の調和のとれた産業人を育成すべく、若者の工学技術教育と人間教育に力を注いで参りました。そして現在では18,000名を越える卒業生が社会で活躍されています。皆さんは、これら先輩の後に続く者として、これから4年間あるいは2年間、本学において学ぶことになります。

皆さんが、これまでの教育で身に付けて来られたことは、答の求め方、つまり「用意されている答にどのようにすれば到達できるか」に関する知識が中心でした。しかし、社会に出てから皆さんが出会う技術的課題の多くでは、答が未知で、「事柄がどうなるか」と言うことと同時に、「それはなぜか」と言うことを明らかにすることが求められるようになります。従って、大学で皆さんが身に付けるべきことは、答を得る方法を学ぶだけでなく、与えられたいろいろな条件、環境、制約の下で、対象とする課題、問題の本質を見通し、幅広い知識を総動員して、より良い答に到達する力であると言えるでしょう。そのためには、正しい答に到達するための知識や方法を、教えられるままに丸暗記するだけでは不十分です。「なぜなのか」、「なぜそうなのか」を自分が納得できるまで考えに考え、追求することが求められます。また、専門分野以外の幅広い分野の知識、教養を身に付けることも必要です。様々な物事や事柄に関心、好奇心を持つことが大切です。そこで、皆さんにお勧めしたいことは、新聞を毎日読む習慣を付けること、いろいろな分野の書物に親しむことです。読書することによって、心の世界を広げることができますし、多くのことを学ぶことができます。

ここで、最近、企業が採用に当って重視する能力を、上位から挙げますと、コミュニケーション力、行動力、性格・人柄、チャレンジ精神です。大学では、学業に励むのはもちろんですが、学友会活動やクラブ活動に参加すること、多くの友人を作ること、ボランティア活動など地域との交流に参加することなどは、学生生活を楽しく豊かなものにするだけでなく、皆さんが、将来、社会に出て行く時に、身に付けていることが最も望まれている「人間力」を高めるのにも大いに役立つと思います。進んで参加されるよう強くお勧めします。

最後に、本学在学中、充実した学生生活を送り、その中で自分の将来への目標を見つけ、建学の精神に沿って、「知」を磨き、「情」を育み、「意」を鍛えて、自ら考え、行動する若者へ育ってくださることを心から願って、告辞とします。



平成二十三年四月六日

久留米工業大学
学長 尾崎龍夫